

悠久

第 45 号



洛陽市凱旋路小学校児童を歓迎（岡山市立中山小学校）

本号の内容

- | | | |
|-------------------------------|-------------------|---------------|
| ① 地域から世界に発信・交流する「ローバル人材」を目指して | 中国学園大学・中国短期大学 | 学 長 松 畑 熙 一 |
| ② 平成25年度 第 5 回 中国 研 修 | 明 誠 学 院 高 等 学 校 | 教 諭 筈 井 淳 |
| ③ 洛陽市・凱旋路小学訪問団との交流 | 岡 山 市 立 中 山 小 学 校 | 校 長 徳 永 充 生 |
| ④ 国際経営学科～中国語講座の取組 | 岡山県立岡山南高等学校 | 副 校 長 澁 谷 壽 郎 |

● December
2014

地域から世界に発信・交流する「ローバル人材」を目指して



中国学園大学・中国短期大学 学長

松 畑 熙 一

二十世紀まで中心的に使われてきた「国際化」という言葉は、「国際」つまり、国と国の際を問題にした用語で、国家間の関係が大切にされてきました。その中でも、主としてアメリカを中心とした欧米諸国とのつながりが重視され、「国際化」は、実際には、いわば「欧米化」であつたと言つても過言ではないでしょう。

一方、「グローバル化」は、国をベースにした考え方ではなく、地球規模で考える「世界的発想」です。どこかの国や地域に偏重することなく、全方位思考を特徴とするものです。

たとえば、「甘え」という日本語が、日本独特の考え方・表現であるかのような誤解がなぜ出てくるのでしょうか。これは、国際化時代の欧米志向による過ちで、いかに欧米にしか目が向いていなかったかの証左です。アジアに目を向けて見ると、隣国の韓国では、「甘え」に相当することは複数あり、日本人以上に「甘え」に対する考え方が行き渡つていると言います。

二十一世紀は、グローバル化が中心概念となりますが、私の造語の「ローバル」人材は、「地域（ローカル）から世界（グローバル）へ」の方向性を基盤とした地域主体の考え方です。あくまで地域が主役であり、地域からどのように世界へと発信し交流していくかを重視した見方です。

私たちは、日常的に生きているのは地域の中です。地域でいかに主体的に生き、心豊かな人生をおくることができるかが第一義的に重要です。

国際的な募金や各種国際協力活動を皆で少しずつ進めることの意義は尊重されねばなりません。しかし、国際貢献は、特別な人が特別な時に、特別なことをすることだけでは決してありません。もっと日常的で、私達一人ひとりの問題です。自分の今の日々の生活の

仕方や考え方がどのようなものになつてきているかの点検・評価をしてみることが必要です。

水や太陽や土の自然資源をどれほど節約しながら、どのようにその恵みをいただいて日々の生活をしているでしょうか。かけがえのない地球ですが、化石燃料一つとっても、これからの約一〇〇年間ですべてを使い尽くすほどの勢いです。私たちは、かけがえのない地球に生かされている地球市民として、「地球一個分の生き方」をする努力が何より大切です。

中国学園大学では、二〇一五年四月より「国際教養学部」を新設いたします。今や、グローバル社会で生きているすべての人にある程度の国際教養が必要です。「国際教養」、それは、日本人としてのアイデンティティを備え、地域・日本・世界への基本認識に基づいて、望ましい対人関係と異文化相互理解力を育み、「地域人・日本人として世界と対話・交流できる資質・能力・行動力」を育てることを通しての人格陶冶です。

新設の「国際教養学部」においては、豊かな国際教養を備え、高い英語と日本語の「統合的コミュニケーション能力」を修得した「地域発グローバル（ローバル）人材」を育てます。特に、「プレゼンの中国学園」として「発信力」「交渉力」を重視し、英語及び日本語によるプレゼンテーション力を育成します。

すべての職業や生活にグローバルな視点が必要になつてのが現代です。最近のモノに恵まれた豊かな生活は、一方で地球環境を破壊し、気候変動や森林破壊など、地球は大きく傷つき病んでいます。いわば「地球病」にかかつている地球を救い、自然・地球の恵みに感謝し、地球に報いる生き方をしなければなりません。「地球（自然）に生かされて生きていくライフスタイル」を築くことが大切です。

平成25年度 第5回中国研修

西安・洛陽・上海

～文字の起源・書の本流を訪ねて～

明誠学院高等学校
教諭 筈 井

淳



豫園(上海)にて

本校、普通科特別芸術コースでは、コース開設以来隔年で吹奏楽系と美術・デザイン系はヨーロッパに、書道系は中国へ赴き、海外での研修を実施しております。今回は平成二十六年三月二十三日～二十七日の四泊五日で行った第五回中国研修からご報告します。

◎本物が育てる鑑賞力と表現力

稽古事や芸事の三原則として「目習い、手習い、指習い」が大切であるといわれるが、書道においても「目習い」が大変重要である。その際、最高の物から物差しを作ることが、後の成長に大きく影響するともよくいわれる。

細川護熙元首相は政界引退後、陶芸家や茶人として活動されている。そして、執筆活動の傍ら、茶器や書画等の個展を行われている。平成二十三年四月、うつすら富士が姿を見せた白茶盃を京都で見た時の衝撃は今でも忘れられない。政界を離れて陶芸に没頭されたとはいえ、あのような作品をたやすく生み出すことができるのだろうか。その後、京都の建仁寺塔頭正伝永源院の襖絵として京都の四季を描かれた。完成する度、拝見させていただく機会を得たが、筆使いや墨使いを含め、その画力には感嘆を覚えずにはいられない。始めて拝見した春を描いた「知音」は襖絵としての二作目だと伺った。八面の襖に臆することなく描かれた東山の山脈と小さく輝く月、そして月明かりに浮かび上がる桜は、デッサンを行わずイメージで描いたと語られた。ただただ先生の才気を感じた次第である。ただしその研ぎ澄まされた感性は突然身に

付いたものでは無いと考える。旧熊本藩主であった細川家の第十八代当主という血筋を持ち、国宝級の美術品に囲まれて育つ中、「目習い」が自然と行われた結果がそこに表現されたのだと考える。



西安碑林博物館にて鑑賞

高校生という多感な時期に、何かに打ち込むことができるなら、できる限り本場で本物を見ることが重要だと考える。研修二日目の午後、西安碑林博物館で鑑賞を行った。王羲之や顔真卿をはじめ、漢から清までの書家が残した約四千もの名跡が収蔵されている。その中から、普段勉強している古典を見つけては、動こうとしない生徒たち。今回の研修で簡単なレポートを課しているが、探究心に火が付いた生徒たちは、何かを掴み取ろうと食欲に石碑と対峙していた。そして今まで書籍の図版で行ってきた鑑賞の甘さに気付く、その違いがどこから生まれているのかと必死に考察していた。帰国後はまた今まで通りの書籍を見て作品制作をするわけだが、本物に触れた生徒は本物と図版は全く別の物であることを理解し、図版を見ながらも脳で本物に近づけるべく加工を施し作品を書き始めた。それぞれがその場で掴んだ要素を加味しながら書かれた作品は、それまでの作品とは全く異なる輝きを放ち始めた。

何より、何事においても物事の表面ではなく、本質を見極めることの重要性を学ん

でくれたのではと考える。気が付けば日が西に傾き、閉館時間を過ぎていた。

◎神品は気を放つ

洛陽龍門石窟の「古陽洞」で歓喜の聲が上った。窟内で天井を見上げると、大小の仏龕および仏像がびっしり彫り込まれていた。満点の星空を見上げた時のような神秘的な気持ちになった。研修三日目、高速鉄道に乗り、西安からしばしば中国王朝の首都となった洛陽へ移動し、午後、洛陽博物館で書籍ではあまり見たことのない隸書を多数鑑賞した。どこを観光しても碑があることを考えると、あまり研究されていない作品もあるのではと感じた。その後、敦煌の莫高窟、大同の雲岡石窟とともに中国三大石窟の一つで、世界遺産の龍門石窟へ足を運んだ。西南から北東へ流れる伊水を挟み、その東西両岸約1kmの岩山に、洞窟一三五二、仏龕七五〇、仏像九七三〇〇、碑文三六〇〇と無数に掘り刻まれた壮大な石窟寺院である。唐の則天武后の時代に彫られた高さ十七mの盧舎那仏は圧巻である。私たちの目的は先ほど述べた、「古陽洞」の中にある蔵像記である。岩肌に直接彫り込んだ磨崖仏には彫った動機や故人の冥福を祈る供養文、願い事を記した願文、そして年月や刻者の名前が文章として刻まれることがあった。これを蔵像記と呼ぶが、そこに刻ま



高さ17mの盧舎那仏

れた角ばった筆づかいの剛毅かつ雄渾な「六朝楷書」は、造形、線質とも大変魅力的である。第三回中国研修の際にもこの地を訪れたが、古陽洞の入口に柵が設けられ、内部を伺うことが困難であった。間口は六〇七m、奥行が十三mと深く、高さが十一mと高い洞窟なので、窟全面に彫り込まれた作品群を鑑賞する為には、窟中に入らない限り不可能なのである。そこで今回は、現在大東文化大学書道学科で教鞭を取られる傍ら、北京大学書法藝術研究所客員教授も務められるなど中国との関係も深い総社市出身の高木聖雨氏にお力添えをいただき、窟内に入れていただいた。摩崖碑とは自然に晒されており時間とともに風化する。つまり、次回見る機会を得ても、確実に今回とは異なる状態となる。もちろん刻された時と今とでは大きく異なるであろうが、貴重な機会を準備していただいたことに心から感謝する。



オペラグラスを使用して鑑賞

◎日中友好

研修二日目は朝から西安市内の観光も行った。中国統一を果たした秦の始皇帝の陵墓で世界遺産の「兵馬俑坑博物館」、玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスをしのばせる「華清池」、西遊記で知られる唐の高僧玄奘三蔵がインドから持ち帰った経典の保存と翻訳のために建てられた「大雁塔」を見学した。その後、大雁塔前の広場で即席揮毫

を行うと、人の垣根ができ、作品が完成する度に多くの拍手をいただいた。熱心に見て下さっていた初老の男性が飛び入りで作品を書いて下さり、作品を交換することになった。「中日友好」と書かれた後、政治の世界では色々あるが、我々庶民は（世界中の）みんなで協力して生活しなければならぬと熱く語ってくれた。

洛陽から上海に移動した研修四日目は、清朝末期から近代にかけて活躍し最後の文人といわれる呉昌碩（一八四四～一九二七）の記念館で鑑賞を行った。西泠印社という篆刻を中心とする芸術団体を設立し初代社長を務めた呉昌碩は、儒学者で日本最後の文人と謳われる富岡鉄斎（一八三七～一九二四）、元首相で岡山にゆかりのある犬養木堂（一八五五～一九三二）、東洋史学者である内藤湖南（一八六六～一九三四）など多くの著名人の印を刻している。驚いたことに大原美術館の基礎を作った児島虎次郎（一八八一～一九二九）とも交流があった。ヨーロッパで印象派を学び、日本の洋画界で多大な業績を残した児島虎次郎は、呉昌碩宅に滞在して活動を行うほど親交は深く、呉昌碩に私淑し強い影響を受けたという。そんな話をはじめ私生活など多くのことをひ孫の呉越さんから直接お聞きできたことで呉昌碩に親近感を覚え、更に研究してみたいと感じた。そして、「父の代では途絶えていた児島家との交流を再開したい。また、こんな時代だからこそ幅広い文化を吸収し、中日の未来に向け、友好の架け橋になってほしい」という呉越さんの言葉は印象的であった。

折しも今年は呉昌碩生誕一七〇年にあたる。

日本各所で記念展が企画され、近隣では、今秋、高梁市成羽美術館で開催される。生徒とともに再会を喜びたいと思う。



大雁塔前にて揮毫（西安）

◎第五回中国研修実施にあたり

今回で五回目となる中国研修だが、行くべきかどうか悩み抜いた上での実施であった。今回の研修自体、一年間延期した末の実施である。尖閣諸島に端を発した日中関係の悪化、さらに反日感情の爆発と反日デモ、実施しようとする度に巻き起こる不安要因。更にPM2.5の大気汚染や鳥インフルエンザ問題も判断を鈍らせた。正直、前回の研修では、中国漁船との衝突事件から、研修先を急遽台湾に変更した。

このような日中関係である今こそ、今後を担う高校生が偏った報道に流されるのではなく、実情を自らの眼で見て判断することが重要なのではないかとのご意見であった。何よりつい先日、北京市教育委員会と姉妹友好提携を結んでいる福山市教育委員会の方が来られ、中学生と高校生らによる訪中は大変有意義であったとのこと。PM2.5に関しては、予防は必要だが今や日本の各所において見られる環境問題であり、突然、中国で始まった訳ではないといった力強い発言は、両者を天秤にかけてもあまる思いであった。当然ながら、無事に帰国できたからこそ言える発言であることは承知しているが、今回の研修に対し深い理解のもと、快く送り出して下さった保護者には頭が下がる思いである。

今回の研修は、多くの方の支援の元、実り多き研修となった。そして日中友好のためにできることをやらねばと決意した研修ともなった。

今回も苦慮する中、強力な後押しを得ることができた。中国現代絵画の収集では世界最高級を誇り、倉敷芸術科学大学でも現代芸術論を教授されるなどの美術評論家で日本中国文化交流協会顧問でもある中川健造氏の存在である。今回の研修についてご相談させていただく中、

月日(曜)	都市名	交通手段	時間	スケジュール
平成26年 1 3月23日 日	岡山空港 上海 西安	MU-528 FM-9203	7:30 9:10 10:10 13:55 16:40	岡山空港1階 国際線団体受付カウンター 空港内にて出発式 出国手続き後、空路 上海へ 到着後、入国手続き 空港内で昼食をお取りいただきます。 国内線にて西安へ 到着後、夕食会場へご案内します。 その後、ホテルへ 【西安泊】
2 3月24日 月	西安			朝食はホテルにて 世界遺産 兵馬俑坑博物館 観光 西安市内観光 (大雁塔 西安碑林博物館) 【西安泊】
3 3月25日 火	西安 洛陽	高速鉄道	10:20 12:03	朝食はホテルにて 高速鉄道にて洛陽へ(約1時間30分) 専用車で洛陽市内観光へ 洛陽市内観光 (洛陽博物館 世界通史館門石座) 【洛陽泊】
4 3月26日 水	洛陽 上海	MU-5390	10:10 11:55	朝食はホテルにて 国内線にて上海へ 到着後、昼食会場へご案内いたします。 上海市内観光 (真真路記念館) 夕食後、上海雑技団鑑賞 【上海泊】
5 3月27日 木	上海 岡山空港	MU-527	17:50 20:40	朝食はホテルにて 上海市内観光 (上海博物館 豫園・豫園商城) 出国手続き後、空路 岡山空港へ

洛陽市・凱旋路小学訪問団との交流

岡山市立中山小学校

校長 徳永 充 生



手作りのアーチでウェルカム

◆民族舞踊の感想◆

・踊りを見て日本の文化との違いに気づいた。
・踊りは、くぎづけになるほどの美しさ

交流は、体育館で6年生手作りの花のアーチと拍手(5・6年生)での「ウェルカム」、歓迎の言葉から始まり、学校紹介のスライドショー(一日の風景、一年の学校行事、学校の周りの様子・歴史など)と続きました。次に、凱旋路小の児童が華やかな衣装をまとい、ゆったりとした民族舞踊を披露してくれました。それを目にした児童たちは大感激していました。

ウェルカム(1・2校時 体育館)

一緒に授業をしたり日本の昔遊びを紹介したりする5年生たちも、普段体験できない貴重な体験ができることが楽しみである反面、言葉が通じないので大丈夫だろうか、正直なところ複雑な気持ちだったようです。しかし、「にわか雨の後に射す太陽」のように、言葉の壁も吹っ飛び、心が晴々するような交流ができた満足していました。

平成26年11月27日(木)、胡娟校長先生を団長とする総勢21名(児童17名、担任2名、通訳1名)の皆様をお迎えしました。この日を迎えるにあたって、記憶に残る交流をしたいという願いから、特に最高学年である6年生たちは、中国での歌『茉莉花』やリコーダー奏や『桃太郎』の昔話を英語で朗読するための練習及び折り紙で『鶴』の折り方を相手に分かりやすく説明するにはどうすればよいかなど、入念な打ち合わせをしました。体育館でリハーサルをするなどの準備を行ってきました。また、中山小児童からのプレゼントとして『千羽鶴』を全員で心を込めて折り、完成させました。



桃太郎の話英語で朗読

桃太郎の話英語で朗読
児童全員が鶴を完了

美しい踊りを見た後、『茉莉花』の歌を相手に伝わりたかった一心で中国語で歌った後、リコーダー奏『ラバズコンチェルト』を聞いていただきました。桃太郎伝説発祥の地であることから、『桃太郎』の昔話を英語で朗読しながらスライドショーも交えて紹介しました。話の中に何度も『きびだんご』が出てきたので、最後に『きびだんご』を児童から一つずつプレゼントして食べていただきました。いよいよ折り紙で『鶴』の折り方を教える場面になりました。児童同士の頭がくっつくくらいに近づき、一つ一つの折り方を説明したり、巨大折り紙を使って分かりやすく説明したりしました。凱旋路小児童全員が鶴を完了



凱旋路小児童が民族舞踊を披露

でビックリした。

・キレがあつて、側転やバック転をしていたので驚いた。

・男女で棒のようなものを「カチカチ」と鳴らして踊ったり、女子だけで「傘」を持って踊ったりと、踊りも衣装もとっても綺麗だったし、とにかく体が柔らかかった。

・すごいなと思ったことは、踊りの最中に頭に付けていたアクセサリみたいな物が外れた時、普通に付け直して続けて踊っていた。私だったら、混乱して踊りについていけなかったと思う。ハプニングがあつても冷静に踊った人はすごいと思った。

最後はプレゼント交換。中山小からは手作りの『千羽鶴』、凱旋路小からは『お正月』をイメージ(爆竹・梅の花・男女の子ども)として紙で作った額入りの作品を交換しました。

1・2校時は、6年生が中心となって企画・計画・運営した交流でした。全員で揃った記念写真は思い出のつまった最高の『宝物』となりました。

国語の授業(3校時 5A教室)

3校時目は5年A組(福田学級)の教室で、クイズやゲームなどの要素も取り入れた漢字文化を伝える国語の授業を行いました。漢字や平仮名・カタカナの由来を学んだり、グループで名刺カードを交換して日本語、中国語での発音の違いや、ドラえもんやプーさんを中国語ではどんな発音をするか、などを楽しみました。



プレゼント交換

◆折り紙の感想◆



折り紙で鶴と一緒に折る
成ることができたときには、「ありがとう」と日本語でお礼を言ってくれたり、握手やハイタッチをしたりしました。

・鶴の折り方を教えてあげると、日本語で「ありがとう」と言ってくれて嬉しかった。

・言葉は通じなくても、ジェスチャーやゆっくり折ると、伝わることを知った。

・自分が笑顔にした相手も笑顔で「ありがとう」と言ってくれて、とても嬉しかった。

・完成した後に手作りストラップをくれました。とてもきれいで可愛かったです。

するのか、また、食文化の違いなど視聴覚機器を活用して、分かりやすく楽しく学習したりすることができました。

◆国語の授業の感想◆

・名刺交換のとき、笑顔で受け取ってくれたのでとても嬉しかった。

・お米づくりが中国から伝わってきたことに驚いた。

・中国語を私たちが読み、日本語を中国の人が読む勉強が楽しかった。

・中国語で書かれた「ドラえもん」が予想していた字と違っていた。中国の人と協力しながら問題を解くことができて良かった。いつか中国の人の授業を見たい。

普遊び(4校時 体育館)

4校時目は、5年C組(栢野学級)の児童が体育館で『日本の普遊び(コマ、けん玉、あやとり・竹馬・羽子板)』を通じて交流しました。教え合っている姿がとても微笑ましかったです。凱旋路小の先生方にも楽しんでいただくことができました。また、凱旋路小からも中国の文化・遊びを紹介していただきました。

◆普遊びの感想◆

・中国にも「あやとりやお手玉」の遊びがあると聞いてびっくりした。



記念写真

・中国の人は「羽根つきは初めて」と言っていたけど上手でした。
・お手玉をした後、女の子が「さよなら」と日本語で言ってくれたので嬉しかったです。

・コマ回しを教えてあげると、中国の人にも一生懸命に練習して回せるようになったので嬉しかった。いろいろな国の人と交流がしたい。

給食調理場見学・給食(6年A・B・C組教室)

中国には給食がないため、給食調理場を案内しました。一度に何百人の給食を数時間でつくりあげる場所が学校内にあることに驚かれたり、各学級の給食当番が「〇年〇組 美味しい給食をいただきます」と、あいさつをしてから手を洗い、各当番が食器類や牛乳瓶やおかずなどを協力して運んでいる姿に感心していました。
・洛陽では、児童も教職員も2時間の昼休みを利用して自宅に帰って昼食(祖父母が作る家庭が多いそうです)を食べ、昼寝をしてからまた登校して5・6校時の授業を受けるそうです。
最後の交流は給食。6年の3学級に分かれてグループになって給食を一緒にいただきました。

◆給食のときに通訳さんを通じて聞けた話や感想◆

・給食が「美味しい」と言ってもらえてよかったです。

・凱旋路小は1600人の大きな学校で、1学級の人数が55人もいて、私たちの学級の2倍の人数にビックリした。
・中国の人口は日本の10倍以上もあり、とても大きな国であることを知った。



授業風景



グループ学習

・給食がなく、昼休みに家に帰って食べて、また学校に来ることに驚いた。

・食事の文化の違いを知った。日本は、ごはんのスープは別にして食べるけど、中国では、ごはんのスープをかけて食べる人が多いそうだ。

・中国の人たちと一緒に食べられたおかげで、普段より楽しく食べることができた。

サブライズ放送(給食時間に校内テレビ放送)

給食の時間に、校長がサブライズの校内テレビ放送をしました。
なぜかというところ、業間時間に胡校長先生からいろいろな場所を見学したいとのリクエストがあったため、職員室や放送室などを案内しました。放送室内のスタジオを見て、ここから各教室へ声だけでなく、テレビで見ることができると感激されていたので、午前中の活動の様子を撮った写真と担任の趙先生・李先生の氏名を書いたボードも準備して臨みました。
放送後に6年担任に尋ねてみると、校長先生も担任の先生もテレビに向かって手を振ったり、活動の様子の写真を見たりできたので大変喜ばれていたと聞きました。

お別れ

そして、お別れの際、別れを惜しむかのようにお互いに握手をしたり、互いが相手の国の言葉で「シェンエ」「ありがとう」と交わし合う姿を見て、胸がキューンとなりました。

◆交流を終えての感想◆

・言葉は通じないけど、みんなで写真を撮ったり、一緒に笑ったりできたので、私も気持ちよく嬉しくなりました。

・中国の人たちと交流ができて嬉しかった。いい機会になった。
・中国の人はとても優しい人だと思った。だから、日本と中国のそれぞれのいいところを学び、それぞれの国が豊かで平和な国へと変わった方がいいなと思った。
・中国の人の踊りは二つともクオリティが高く、プレゼントの作品もクオリティが高かった。僕は一つ一つをハイクオリティに仕上げることの大切さを学んだので、それを日常に生かそうと思った。あまり体験できない貴重な出来事だったのでとても光栄。言葉の壁を乗り越えることができ、伝え合うことができて嬉しかった。機会があれば、また国際交流をしたい。
・海外の人たちとふれ合ったのは初めてでした。とても貴重な体験ができて嬉しかった。
・今度は、僕たちが中国に行ってみよう。



けん玉



あやとり

嬉しく思っています。このような機会を与えていただいたこと、また、当日までの日程調整や、当日の通訳などでお世話になりました。誠に感謝申し上げます。

感謝！



竹馬

国際経営学科～中国語講座の取組

岡山県立岡山南高等学校

副校長 澁谷 壽郎

国際経済科の概要について

岡山南高校は商業学科と家庭学科からなる専門高校で、今年で創立112周年を迎えます。

商業学科は商業科（二クラス）、情報処理科（二クラス）と国際経済科（一クラス）の三つの小学科から成り立っています。国際経済科は1992年（平成4年）に「国際化が進む社会に対応する、国際感覚に富む、高いビジネスの専門知識と語学力を持つ人材の育成」を目的として設立されました。

グローバル化が進む世界で、語学と商業経済に強い、国際感覚あふれるビジネスリーダーの育成が国レベルで急務とされる今日、22年前の設置が将来を見越した進取の気性に富んだものであったと思っています。

カリキュラムの特色について

設立当初から商業関係科目を中心としたビジネスの専門知識の習得とともに、語学教育については強い関心がありました。そこから英語だけではなく、アジア地域で最も使用頻度の高い「中国語」を岡山南高校は第二外国語としてカリキュラム内に設定しています。現在、国際経済科3年生19名が選択しています。

「少人数で学べる」「本場の発音に

興味がある」「新聞やニュースで報道されることとは違った面が、授業を通しての先生とのやりとりから発見できる」等、生徒には好評の授業です。

授業は現在、岡山大学に通う中国人留学生の方が受け持っています。週に2時間、「発音の基礎」「基本的な句法」「簡単な日常会話」を中心に勉強しています。

基本的な発音、文法及び漢字の基本を習熟することに加えて、現代中国の文化、習慣などに対しても理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指すとともに、相手の気持ちや考え方を理解したうえで、自分の考えなどを表現するプレゼンテーション能力を養っています。

実際に受講している生徒はペアワークやロールプレイで実践的に学べると毎週の授業を楽しみにしています。

授業を通して、外国語をどのように学んでいくのかという語学教育の基本を改めて考える機会を与えられ、今は簡単な日常会話の楽しさも感じているようです。英語の他に中国語の授業を選択できることのメリットは十分にあると感じています。

現在、日中関係は厳しい状況にありますが、社会的に未成熟として相手にせずといった態度をとったり、

低次元での反駁を繰り返すことをこのまま続けることはアジア、ひいては世界全体の利益と平和につながらないことは明らかです。今だからこそ、近くて遠い国ではなく、互いに持続可能な社会を目指して、両国の協働と交流の新たな関係づくりの担い手として本校の生徒が育ち、また関わってくれることを期待しています。



中国語の授業風景

国際理解教育について

岡山南高校国際経済科の特色ある授業内容についてご紹介しましたが、急速なグローバル化が進む世界では授業の他に国際理解教育も重要となります。

異なる文化、言語を持つ人々を理解しながら共存して行くことが出来る人材を育てるために、平常の授業に加えて、国際感覚豊かな講師を招いての特別講義を中心として、ワークショップ等を含めながら学校外組織との連携による多様な視点からの国際理解教育に取り組んでいます。

「インターキッズ国際塾との連携」

インターキッズ国際塾は「国際問題や文化などを学び、幅広い視野や考える力をつける」ことを目的とする、岡山では有数の国際教育を実践するボランティア組織です。

本校との連携事業として、フォーラム岡山の講師を招いての特別講義を今年は3回お願いしました。これらは夏期休暇中を含む課外講義として行われたものです。

国際塾の塾長である松畑熙一中国学園大学長による講演「『英語は学習するもの』を通して、自勢力を磨こう！」、副会長 浜家弘巳氏の長期海外赴任時の体験を基にした講演「[Tips for being international]」、ノートルダム清心女子大学 小笠原ヒロ子先生による「大学生とのイングリッシュ・カフェ」などです。



インターキッズ国際塾との連携①

「大学との連携」

生きた英語とふれあい、また異文化を知ること、グローバルな視野を養うために、国際経済科では、岡山大学に通う外国人留学生との交流を行っています。交流会では留学生から母国の風習を聴く懇談会を持ち、英語と日本語とボディーランゲージを使い、外国人とコミュニケーションをとることに對する心のハードルをなくし、異文化理解と日本文化の紹介をしています。



インターキッズ国際塾との連携②

「その他の外部団体との連携」

JICAによる「世界がもし100人の村だったら（ワークシヨップ）」、駐日欧州連合代表部による「EUがあなたの学校にやってくる」、岡山県国際交流員による「グ

ローバル化する国際社会と日本」など国際経済科の国際理解教育に厚みを加えています。

「地域との連携」

国際経済科1年生が地域に在住の外国人とイベントを企画・運営をしています。

「まるごとワールド in 岡輝」は岡輝地区に在住の外国人、岡山南高生徒、学区住民が実行委員となり、企画運営の仕事を通じて、国際人としての感覚を養い、コミュニケーション能力の重要性や協働の楽しさを味わうことができます。

岡山で暮らす外国人の方々の力を地域に反映、発揮できる場として、今回も会場作りから始まり「各国の



地域連携（まるごとワールド in 岡輝）

ランチ作り」「英語でリトミック」などのイベントを通して連携を深めることができました。

以上、様々な取り組みについて紹介しましたが、その他にも「イングリッシュ・キャンプ」「夏休みのオーストラリアでホームステイ研修」、またスピーチコンテスト等へも積極的に参加して英語のスピーキング能力の向上にも努めています。

今後も岡山南高校 国際経済科へのご理解とご支援の程、よろしくお願い致します。



英語でクッキング



オーストラリア・ホームステイ

「夢」を実現できる43年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

＜旭川キャンパス＞

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086) 275-0145・FAX (086) 275-3283

＜吉井川キャンパス＞

介護福祉科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086) 944-6911・FAX (086) 944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

中国語講座

2014年度前期 計18回
(2014年4月3日～8月26日)

特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回

太極拳コース

毎週木曜日(14:00～15:00)
計15回

子供向けコース

毎週土曜日(11:00～12:00)
全15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642 (内線521) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院 (現代生活学研究科)
子ども学研究科

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校(中高一貫コース)

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：難関国立大学、医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報課
TEL (086) 256-8527 FAX (086) 256-8526

未来をつむぐチカラ。



KANKO

「尾崎商事株式会社」は、「菅公学生服株式会社」へ社名変更いたしました。

菅公学生服株式会社 岡山営業所

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

 (公財)全国高等学校体育連盟協議会 インターハイ協議会
  (公社)全国高等学校文化連盟協議会
  (公財)日本中学校体育連盟協議会
  (公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

カンコー学生服 検索 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>

菅公学生服株式会社 お客様相談室 フリーコール 0120-712983 9:00~17:30/土・日・祝日除く。
※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

カンコー学生服は、子どもの健康と学業成就を願って学問の神様である菅原道真公(菅公=カンコー)にちなんで名付けられました。

160th
ANNIVERSARY



「よく生きる」 を考える。

株式会社ベネッセホールディングス <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 東京本部 〒163-0416 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング16F



Yayoi Kusama "Pumpkin" Photo: Shigeo Anzai

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオブティカルカレッジ

今年も全員就職が内定しました!

天職が見つかる「学校説明会」



1月31日(土)
2月28日(土)
13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ◀ 本校独自の特待生制度 奨学金制度があります ▶ 高校卒業生コース (3年制) 短大卒業コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう!

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎! ご一報ください。

<費用> 入学金...3,150円 (消費税込)

☆継続者は免除☆

受講料...31,500円 (消費税込) / 全24回

教材費...実費 (2,000円~3,000円程度)

<申込方法> 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター (岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで25周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 中国東方航空で上海へ! 上海経由で中国・世界各地へ!
- 大韓航空で韓国ソウルへ! 仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー (上海・台北・大連・青島など)
- 特徴あるこだわりのツアー
中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F (〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第45号

発行：平成26年12月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社